

小 学 校

令和5年度

教育研究員研究報告書

総合的な学習の時間

東京都教育委員会

目 次

I	研究主題設定の理由	1
1	研究主題について	1
2	副主題について	1
II	研究構想図	2
III	研究内容	3
1	基礎研究	3
2	研究主題に迫るための手だて	3
3	実践事例	5
	〈実践事例 1 : 小学校第 5 学年〉	5
	〈実践事例 2 : 小学校第 6 学年〉	8
	〈実践事例 3 : 小学校第 5 学年〉	11
	〈実践事例 4 : 小学校第 6 学年〉	14
IV	研究の成果と課題	16

研究主題

主体的に学び続ける児童を育成する総合的な学習の時間 ～児童が自己評価を生かすための指導の充実～

I 研究主題設定の理由

1 研究主題について

近年、我が国は、生産年齢人口の減少、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により、社会構造や雇用環境が大きく変化し、予測困難な時代となっている。このような時代背景を踏まえ、「東京都教育施策大綱」（東京都 令和3年3月）（以下、「教育大綱」と表記。）では、「未来の東京」に生きる姿として、「子供たちには、常に社会の変化を柔軟に受け止め、生涯にわたって様々なことに粘り強く挑戦し、自ら学び続けていく姿勢が必要」であると述べている。

しかし、「令和5年度『児童・生徒の学力向上を図るための調査』（東京都教育委員会）における児童・生徒調査では、学習の進め方（教科共通）「学習をしてもできるようにならないときは、学習の方法を工夫している」という項目において、約3割の児童が否定的な回答をしている。また、同調査における「難しいと感じる問題でも、最後まであきらめずに取り組んでいる」という項目において、肯定的な回答をした児童の割合が、学年が上がるほど低くなるという結果が示された。

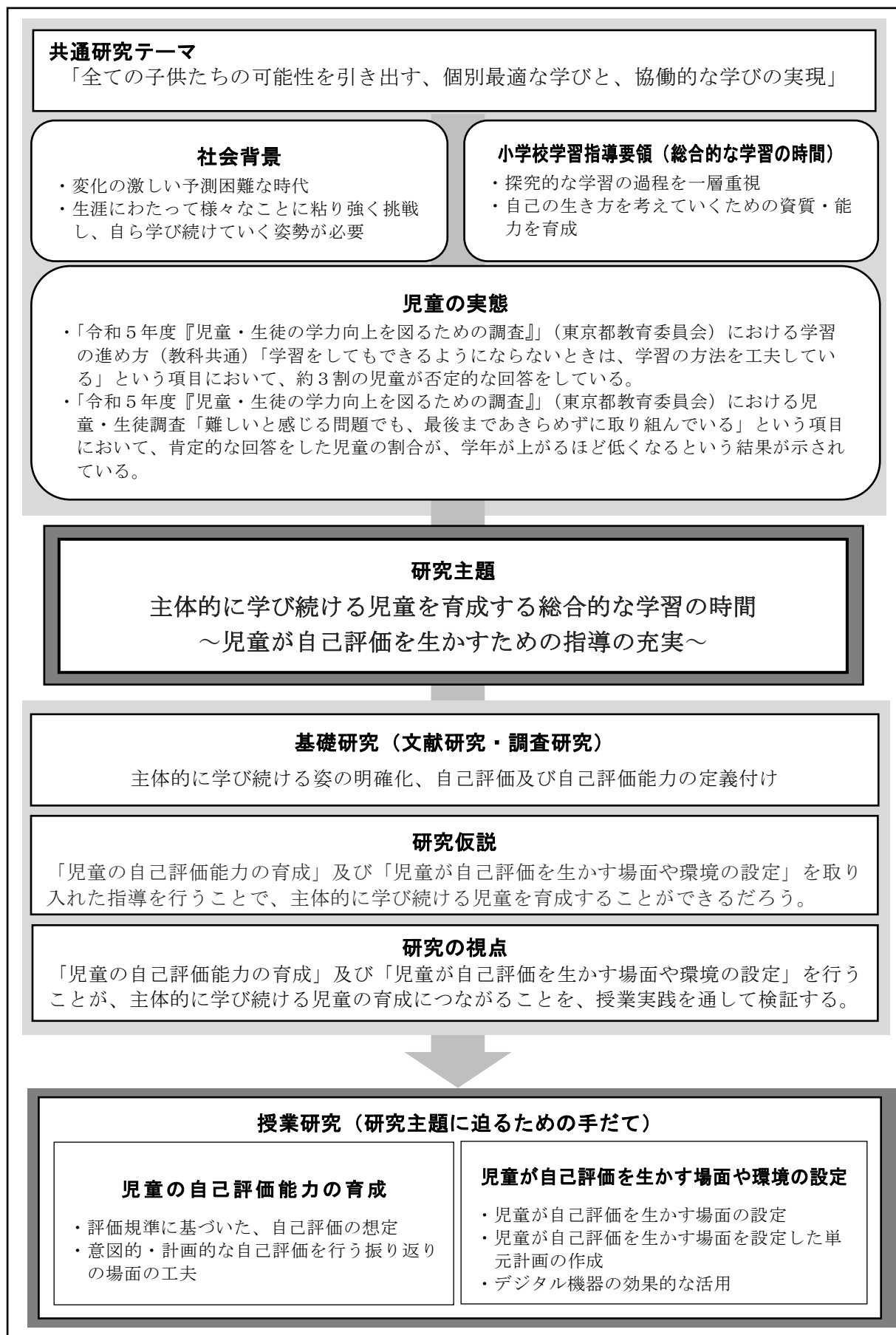
本研究では、「教育大綱」にある「生涯にわたって様々なことに粘り強く挑戦し、自ら学び続けていく姿勢」は、総合的な学習の時間の目標「よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成する」に通ずると考えた。教育大綱にある粘り強く挑戦し、学び続けていく姿勢の実現に向けて、総合的な学習の時間において、全ての児童が主体的に取り組むことのできる学習を実現し、生涯にわたって様々なことに粘り強く挑戦し、自ら学び続けていく児童を育成していくことが不可欠であると考えた。以上を踏まえ、研究主題を「主体的に学び続ける児童を育成する総合的な学習の時間」と設定した。

2 副主題について

「小学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編」では、「自らの学びを意味付けたり価値付けたりして自己変容を自覚するために振り返りの場면을学習過程に位置付けることが適切である」と示されている。また、学びに向かう力、人間性等の育成における配慮事項として、学ぶことの意義を自覚したり、自分のよさや可能性に気付いたり、学んだことを自信につなげたり、現在及び将来の生き方につなげたりする内省的な考え方といった「自分自身に関する」視点を踏まえた指導が重要であることが示されている。

本研究では、振り返りの場面における内省的な考え方を深める指導において、自己評価が重要であると考えた。児童が自らの学習状況を振り返る自己評価を充実させることで、自身の学習状況を把握したり、自己の高まりや成長といった変容を実感したりすることができるからである。このような自己評価をすることのよさに児童自身が気づき、自ら自己評価を生かすことが、目的に向かって粘り強く取り組み、自らの学習を調整しながら主体的に学び続けることにつながると考えた。このことから、副主題を「児童が自己評価を生かすための指導の充実」と設定した。

II 研究構想図



Ⅲ 研究内容

1 基礎研究

(1) 主体的に学び続ける姿について

「主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善の視点について」（国立教育政策研究所 令和2年6月）では、学習者の視点からの主体的な学びを次のように位置付けている。

- ・学ぶことに興味や関心を持つ
- ・自己のキャリア形成の方向性と関連付ける
- ・見通しをもつ
- ・粘り強く取り組む
- ・自己の学習活動を振り返って次につなげる

本研究では、これらのことを児童自身が繰り返し行い学ぶ姿を、主体的に学び続ける姿とした。

(2) 自己評価について

「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開」（文部科学省 令和3年3月）において、自己評価とは、児童が自らの学習状況を振り返ることによる評価であると示されており、本研究においても同様に定義した。なお、同書には、その効果として次のことが示されている。

- ・できるようになったことを明確につかむ
- ・自己の高まりや成長といった変容を実感する
- ・学習意欲の向上に結び付けることができる

本研究では、自己評価能力を、自分の実現状況を適切に自己評価できる力であると定義した。児童の自己評価能力を育成し、児童が自己評価を学習に生かすことができれば、児童が目指す自身の姿とそこに至るまでの道筋を鮮明に描くことができ、児童自らの学習を調整して次につなげる力を育むことができると考えた。

2 研究主題に迫るための手だて

(1) 児童の自己評価能力の育成

ア 評価規準に基づいた、自己評価の想定 手だて(1)ア

総合的な学習の時間で育成することを目指す資質・能力に沿った評価規準に基づき、児童の自己評価を教師が想定することで、児童の自己評価をよりよく見取り、指導を充実させることができる。指導を充実させる方法として、以下の例が挙げられる。

- 児童自身が学習状況と自己評価とのずれに気付くことができるよう支援することで、活動を修正したり、気付かなかった問題点に着目したりできるようにする。
- 単元の目的を共有し、なりたい自分の姿をより明確なものにする。

このような指導を繰り返し行うことで、児童は学習状況をより客観的に把握することができ、自己の高まりや成長といった変容を実感したり、今後の活動の見通しをもって学習や行動を調整したりすることができる考えた。

イ 意図的・計画的な自己評価を行う振り返りの場面の工夫 手だて(1)イ

意図的に振り返りの場面を設定し、計画的に探究的な学習の過程に位置付けることで児童が自己の高まりや成長を実感できるようにする。

- 毎時間の終末に、学習に対する自己評価を継続して実施することで、児童の自己評価能力を育成できるようにするとともに、児童が、本時の学習内容を生かしながら、次時の学習に向けて見通しをもつことができるようにする。
- 小単元・単元の終末に、探究課題とゴールイメージに対する自己評価を実施し、繰り返し内省できる機会を設定することで、児童が毎時間の終末だけでは捉えきれない自己の高まりや成長といった変容を実感できるようにする。
- 単元の終末に、単元全体に対する自己評価を実施することで、児童が自己の高まりや変容といった1時間単位では得にくい成長を、大きな時間の中で実感できるようにする。

(2) 児童が自己評価を生かす場面や環境の設定

ア 児童が自己評価を生かす場面の設定 手だて(2)ア

- 導入の場面では、教師が本時のねらいに迫るものを選出したり分析したりした前時の振り返りの場面における児童の自己評価に、意図的に触れてからめあての確認を行うことで、児童が学習の見通しをもち、目指す自身の姿と解決とそこに至るまでの道筋を鮮明に描くことができるようにする。
- 展開の場面では、これまで蓄積してきた自己評価を児童が自身のタイミングで振り返る機会を設定することで、児童が自ら学習を調整し、自己評価を生かしながら課題解決に向けた最適な学習を進められるようにする。
- まとめの場面では、学習前と学習後を比較して、1単位時間の中でできるようになったことやうまくいかなかったことなどを振り返る機会を設定することで、児童が目標を達成するために自らの学習状況や思考、行動を客観的に把握し認識したり、次の学習や他の教科等につなげたりできるようにする。

イ 児童が自己評価を生かす場面を設定した単元計画の作成 手だて(2)イ

児童が過去の自己評価を振り返る必然性のある単元計画を作成し、計画的に振り返らせることで、児童に自身の活動が活性化したり、成功したりする経験を積ませる。このことを通して、児童自身が自己評価のよさに気付けるようにし、自己評価を自ら生かそうとする態度を育てる。

ウ デジタル機器の効果的な活用 手だて(2)ウ

デジタル機器を活用して児童自身が自己評価を蓄積し、学習の履歴を分析したり、思いや考えを整理したりすることで、児童が自らの学習を振り返ったり、計画を立てたりできるようにすると同時に、共同編集機能等を活用して、児童同士の学びを共有できるようにする。

3 実践事例

実践事例1 地震から身を守ろう（小学校第5学年）

(1) 単元の目標と評価規準

ア 単元の目標

地震発生時の防災における安全な町づくりのための活動を行うことを通して、命を守るための方法やそれを守る町の取組について理解し、地域の一員として災害に備えるためにできることを考え、学んだことを自らの生活や行動に生かすことができるようにする。

イ 評価規準

知識・技能（知）	思考・判断・表現（思）	主体的に学習に取り組む態度（主）
① 地震発生時の危険な場所や安全な避難の仕方を知るとともに、地域には住民の安全を支える取組があることを理解している。 ② 学校や地域の防災について、目的に応じて、方法を考えて調べている。 ③ 防災に関する意識の高まりは、地域の防災上の課題を解決するために探究的に学習してきたことの成果であると気付いている。	① 身近な地域の防災上の課題から問題を発見し、調べたことを基に、自分にできる解決の仕方について計画を立てている。 ② 多様な立場の人にとって安全な町づくりになるよう、必要な情報を取捨選択したり、複数の情報を比較・関連付けたりして解決に向けて考えている。 ③ 伝える相手や目的に合わせて分かりやすくまとめ表現している。	① 災害について関心をもち、自分の生活を見直したり、他者の考えを認めたりしながら課題を解決しようとしている。 ② 多様な立場の人の考えを生かしながら協働的に探究活動に取り組もうとしている。 ③ 自分と防災や地域の人々との関わりに気付き、自分の命を守る行動や、地域のためにできることを考え行動しようとしている。

(2) 単元設定の理由

本校の周辺は入り組んだ狭い路地や木造住宅が密集する地域があり、「地震に関する地域危険測定調査（第9回）（東京都都市整備局 令和4年9月）」において、建物倒壊危険度や火災危険度が一番高いランク5に評価されている。このことから、地域の特性を知り、自分の身を守るための方法を理解するとともに、地域の一員として防災のための安全な町づくりに参画する資質・能力の育成が求められると考えた。荒川区防災課の職員や障害者福祉会館など、防災のための安全な町づくりに向けて活動している多様な立場の人と繰り返し関わることで、多面的・多角的に自分たちの活動内容を捉え直し、生活や行動を改善する必要性を感じることができると考え、本単元を設定した。

(3) 単元指導計画【全50時間：（ ）内は時間数】

	□主な学習内容 課：課題設定、情：情報の収集、整：整理・分析、ま：まとめ・表現 ・学習活動 【評価】 手だて
学校での安全な避難を考えよう（14）	課自分たちの避難行動について話し合い、課題を設定する。(3)【思①・思①、主①】手だて(2)イ ・給食準備中や休み時間の終わりなど、様々な場面での地震発生を想定した避難を相互に見合っ自分たちの課題を話し合い、学習計画を立てる。 情地震発生時の安全な避難の仕方について調べる。(4)【知①】 ・「東京防災」や本、インターネットを使って避難の仕方や危険な場所を調べる。

	<p>・調べた情報を基に学校内の危険な場所、安全な避難の仕方について調査する。</p> <p>整校内避難経路図に危険な場所を表し、情報を整理する。(2)【思②】</p> <p>ま調べたことを基に、下級生へ避難の仕方を伝える。(5)【思③】</p> <p>・相手に合わせて伝える情報を選び、適した方法でまとめ、伝える。</p> <p>・活動を振り返り自分たちの課題がどの程度達成されたか話し合い、次の課題をもつ。手だて(1)イ</p>
<p>地域の安全な避難について 考えよう(9)</p>	<p>課地域の防災上の特色をつかみ、課題を設定する。(2)【思①】</p> <p>・東日本大震災の時の学校の周りの様子について消防団の職員から話を聞く。</p> <p>・地域にある防災用具や防災広場を見て地域の防災上の特色をつかみ、課題を設定する。</p> <p>情避難所や防災広場について調べる。(4)【知②、思②、主②】</p> <p>・荒川区防災地図(地震版)を見て地域を歩いたり、防災課にインタビューしたりして、地震発生時の安全な避難の仕方や防災における対策について、目的に合わせて調査する。</p> <p>整Yチャートを用いて地域の取組・安全な避難行動・危険な場所を表し、情報を整理する。(1)【思②、主②】 手だて(1)ア</p> <p>ま調べたことを学年で共有し、今後の活動について見直し、計画を立てる。(2)【知①、思②、主③】 手だて(1)イ 手だて(2)ア</p>
<p>自分たちに行えることを考えよう(13)</p>	<p>課地域の安全のためにできることを知るための計画を立てる。(3)【思①】手だて(2)イ</p> <p>・地域の防災のために活動している消防団の職員や東日本大震災の際にボランティアとして活動した障害者福祉会館の方から話を聞く。</p> <p>・自分たちに行えることは何か、ウェビングマップを用いて話し合う。</p> <p>情自分たちに行えることを調べる。(4)【知①、主①②】手だて(2)ウ</p> <p>・荒川区防災課や障害者福祉会館の方にインタビューしたり、地域の避難所開設訓練に参加したりして情報を集める。</p> <p>整集めた情報の中から実際に行えそうなことを考える。(2)【主③】手だて(1)ア</p> <p>・似たことを調べている他のクラスの児童と情報を交流して、今後の活動に必要な情報を精選する。</p> <p>ま学習の成果と課題を話し合い、次時の課題を設定する。(4)【知③、思②、主③】手だて(1)イ</p>
<p>安全な町づくりのために 行動しよう(14)</p>	<p>課小単元3の終末で設定した「地域みんなで防災対策を取れるようにイベントを開こう」を実現するための学習計画を立てる。(2)【知①、主①②】手だて(2)ア</p> <p>情地域や家庭で取り組む防災・減災対策について調べる。(4)【思①】手だて(2)ウ</p> <p>整・ま情報を整理し、地域の方に防災・減災を知らせるイベントを開く。(8)【知③、主③】</p> <p>・互いに見合ったり、荒川区防災課や障害者福祉会館の方に見てもらったりして伝え方を修正する。</p> <p>・地域の方や保護者に向けてイベントを開き、みんなでできる防災について知らせる。</p> <p>・単元を通して学んだことを振り返り自己の変容やこれからの生活について考えたことを交流する。 手だて(1)イ</p>

(4) 考察

ア **児童の自己評価能力の育成**

(ア) 評価規準に基づいた、自己評価の想定 **手だて(1)ア**

本時の児童の自己評価を以下のように具体的に想定することで、児童が学習状況に即した学習デザインや支援の在り方を再考することができた。小単元2の児童の振り返りでは、

整理・分析した情報を学級で共有する際、目的が曖昧な記述が多かった。そのため本時では、A児童の「気付いたら目的と違うことを話し合っていた。次の時間は何をみんなに一番伝えたいか、きちんと整理したいと思った。」という振り返りを学級で共有し、交流する目的について話し合った。すると、小単元の始めに立てた課題を解決するためには、調べた情報を学級で共有し、幅広い知識を得ることが必要だということが明らかになった。目的が明確になると、必要な情報を伝えるために、もう一度グループで情報を整理したいと児童から声が上がった。教師が児童の学習状況を適切に見取り、授業改善を図ることで、児童が自らの学習状況を適切に振り返ったり、単元の課題を再認識して学習改善を図る必要性を感じたりすることができた。これが児童の自己評価能力を高めることにつながった。教師が想定した自己評価をどのように指導に生かすか、さらに検討を重ねる必要がある。

(イ) 意図的・計画的な自己評価を行う振り返りの場面 手だて(1)イ

- ・ 単元の終末：単元全体に対する自己評価

小単元末や単元の中で意図的・計画的に自己の成長を振り返ることを積み重ねることで、児童は自己の変容に目を向けるようになった。単元の終末での自己評価では、今までに積み重ねてきた自己評価を基に学級の9割の児童が、自己の成長に気付くことができた。防災について知識が広がっただけでなく、仲間と協力したり粘り強く学習を調整したりして課題の解決を図れるようになったことや、防災における町づくりに向けて行動できるようになったこと、適切に自己評価ができるようになったことなど、一人一人がそれぞれの成長に目を向けることができるようになった。

イ 児童が自己評価を生かす場面や環境の設定

(ア) 自己評価を生かす場面の設定 手だて(2)ア

- ・ まとめの場面における指導の工夫

「国語で学習したインタビューの行い方を総合的な学習の時間に活用できていなかったのので、次は相手の目を見て、目的に合わせたインタビューのメモを作成したい。」と1単位時間の終末場面に自己評価したB児は、それを生かして次の時間にインタビューを改善していた。この時間の振り返りでは、他教科で学んだことを活用して課題解決を図れるようになった自らの成長に気付いていた。

(イ) 児童が自己評価を生かす場面を設定した単元計画の作成 手だて(2)イ

計画的に自らの学習を他者に評価される活動を取り入れることで、自らの学習を振り返る必然性が生まれた。C児は学級で調べたことを交流したときに発表がうまくいかなかった原因を明らかにできるようになったので、次の小単元で他の学級と考えを交流する際に発表の仕方を改善できた。学習の終末での自己評価では、発表を改善できたと自らの学習を肯定的に受け止めていた。また、小単元4で地域の方に防災対策を伝える際は、互いに見合ったり、区の職員にアドバイスをもらったりすることで、自分たちの学びについて認めてもらい、よりよく伝えようと、改善点について活発に話し合う姿が見られた。よりよく伝えて地域のみんなで防災対策をしようと、自分たちの発表を見直していた。

実践事例 2 おみやげで境の魅力発信！～プロジェクト S～（小学校第 6 学年）

(1) 単元の目標と評価規準

ア 単元の目標

地域活性化のために自分たちにできることを考えて活動することを通して、地域活性化に携わる人々が願いや思いをもって努力していることに気付き、地域の魅力ある商品をまとめた「おみやげ手帳」製作を目指して課題解決に向けて考えながら、地域の魅力を伝えたり、広げたりしようとするとともに、目的に向けて粘り強く取り組もうとする。

イ 評価規準

知識・技能（知）	思考・判断・表現（思）	主体的に学習に取り組む態度（主）
<p>① 自分たちの住む地域には、地域の魅力を伝えるために選んだ商品を生かして地域活性化が進められており、そこに携わる人々が願いや思いをもって努力していることを理解する。</p> <p>② アンケートやインタビューなどによる調査を、目的や場面に応じた方法で実施している。</p> <p>③ まちづくりへの理解や自身の成長は、地域活性化に向けて探究的に学習してきたことの成果であると気付いている。</p>	<p>① 現状を捉え、次にどうしたら良いかを考え、課題を作り、解決に向けて自分にできることを考えている。</p> <p>② おみやげ手帳製作に向けて必要な情報を、手段を選択して収集している。</p> <p>③ 地域の活性化に向けて収集した情報を目的に応じて比較し、取捨選択したり、関連付けたりしながら、解決に向けて考えている。</p> <p>④ 伝える相手や目的に合わせて分かりやすくまとめ表現している。</p>	<p>① 学習活動を通して、自分なりに見つけた地域の魅力を伝えたり、広げたりしようとしている。</p> <p>② 地域の活性化に向けた取組を考えたり実行したりする中で得た知識や友達の考えを生かしながら、協働的に課題解決に取り組もうとしている。</p> <p>③ 課題解決に向けた自分の取組や状況を振り返り、目的に向けて粘り強く取り組もうとしている。</p>

(2) 単元設定の理由

本校では、4年生から総合的な学習の時間における活動を学級別を実施する形態をとっており、過去に、創作活動を中心とした探究的な学習、保育園の園児との交流活動を中心とした探究的な学習などを行ってきた。しかし、地域の人々と関わる機会が少ないことが課題であった。そこで本単元では、地域活性化に取り組む人々や地域の商店の方々との交流ができる単元にしようと考えた。

本校がある武蔵野市では、武蔵野市観光機構が地域活性化の取組として、地域のお土産として代表となる商品を選考し、パンフレットにまとめ、販促活動を行っている。本単元は、この取組をきっかけに学習活動を展開する。本単元のテーマを考える際、大事にしたいこととして、児童は「みんなで協力できること」、「地域に貢献できること」、「6年生だからこそできること」を挙げた。「おみやげ手帳」に、大人ではなく児童目線で選考された商品を掲載した「子ども版おみやげ手帳」の製作を通じた地域活性化を目指すことで、児童が自分たちだからこそできることにやりがいを感じ、そのやりがいが児童の学習への意欲につながると考えた。

(3) 単元指導計画【全 80 時間：()内は時間数】

	<p>□主な学習活動 課：課題の設定、情：情報の収集、整：整理・分析、ま：まとめ・表現 ・学習活動【評価】手だて</p>
自分たちが できる (20)	<p>課前年度の各クラスの取組を共有し、総合のテーマを決める上で大切にしたいことを話し合う。(4) 【思①】 情地域の人の取り組みについてインタビューなどをして調べる。(7)【知①・思①】 ・調査の度に振り返りを行い、地域の課題や、今後の活動について考える。 整地域活性化に向けて取り組みたいことを提案する。(4)【思④】 ・リハーサルを通して、提案がよりよくなるように、互いに助言し合う。 ま武蔵野市観光機構に活動を提案し、学習計画を立てる。(5)【思④・主③】 ・国語科の学習で学んだ提案書を作成するポイントを生かし、提案をまとめる。手だて(2)ウ</p>
う！ (15)	<p>課自分たちが推薦する商品を出し合う。(3)【思①】 ・お薦めする商品を扱う店舗をマップにまとめる。 情近隣の小学校の児童や下級生にアンケートをとる。(6)【知②・思②・主②】 ・アンケートを作成するグループ、実際に校長先生に交渉するグループ、アンケートの説明を作るグループなど、アンケート結果を分析しやすいように整理するグループに分かれ、協力して活動する。 整アンケート結果を集計し、どのように精選するか話し合う。(5)【思②・主③】 ・商品を精選するための優先順位を考える。手だて(2)ウ ま商品を決定し、武蔵野市観光機構に報告する。(1)【思③】手だて(2)ウ ・これまでの学習を課題設定、情報収集、整理・分析、まとめ・表現の項目で整理して振り返り、自身の成長について考える。手だて(1)イ</p>
おみやげ 手帳を 作る う！ (27)	<p>課今後の学習計画を立てる。(2)【思①・主②】 ・様々なパンフレットをいつでも手に取ることのできる学習環境を整える。 情各店舗に取材をする。(10)【知①・思③④・主①③】 ・自己評価を生かして学習調整を行うことができるよう、複数回取材できる店舗を選ぶ。 整/ま商品や店舗の魅力が伝わる情報を精選する。武蔵野市観光機構やパンフレット製作のプロから助言を受け、内容を推こうする。(15)【知①・思③④・主①③】 ・商品や店舗の魅力が読み手に伝わるようにパンフレットに表現する。手だて(2)ウ ・必要に応じて、もう一度取材に行く。手だて(2)ア ・武蔵野市観光機構やパンフレット製作のプロから受けた助言の内容を学習履歴から確認し、修正する。 手だて(2)イ 手だて(2)ウ ・これまでの学習を課題設定、情報収集、整理・分析、まとめ・表現の項目で整理して振り返り、自身の成長について考える。手だて(1)イ</p>
う！ (18)	<p>課どのようにして、「子ども版おみやげ手帳」を広げるか考える。(2)【主①】 ・これまでの探究的な学習の学びを生かして、児童が学習計画を立てられるようにする。 手だて(2)イ 手だて(2)ウ 情/整おみやげ手帳を広める機会を情報収集したり、境南フェスティバルの企画・展示の計画を立てたりする。 (6)【知①・思①・主②③】 ま境南フェスティバルで「子ども版おみやげ手帳」を広げる企画・展示をしたり、地域のイベントに参加したりして、「子ども版おみやげ手帳」を配布する。(10)【知③・思④・主③】 ・イベントに参加し、地域の方々に直接「子ども版おみやげ手帳」を手渡しで配布する。 ・単元全体を振り返り、自己の成長について考える。手だて(1)イ</p>

(4) 考察

ア **児童の自己評価能力の育成**

(ア) 評価規準に基づいた、自己評価の設定 **手だて(1)ア**

児童の具体的な姿や自己評価を想定することで、児童の自己評価をよりよく見取り、児童自身が学習状況と自己評価のずれに気付くことができるように以下のように支援した。このことによって、児童は自ら活動を修正したり、気付かなかった問題点に着目したりすることができた。商品やお店の魅力を伝えるための情報を整理する場面では、食べた感想や美味しさを伝えるための情報が不足しているグループがあった。このグループのA児は、質問内容を精選し、取材する学習活動において、取材内容は十分であると考えていた。そのため、取材して得た情報を整理する学習活動において、自分のグルー

プの話合いの記録(図2)と他グループの話合いの記録(図3)を比べるように促した。すると、A児は「次に行くときには試食をして、クリーム of 産地や作り方を聞きたいと思った。」と振り返り、もう一度取材計画を立てようと学習調整を図ることができた。

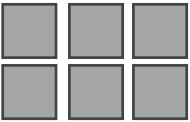
<p>〈お店の店長さんに取材〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大変なこと：労働時間が長いこと ・お店の名前の由来：「○○○○」はフランス語で「○○○○」。ちょっとずつ頑張り、幸せを届けたいから。 ・こだわっていること：作りたてを提供すること 	<p>家族や男性に人気</p> <p>カツサンドはソースが多い</p> <p>お肉の切り方が大切</p> <p>—食べた感想—</p> <p>パンがふわふわ。マヨとソースがいい！</p> <p>肉が柔らかくて食べやすい！</p> <p>食べるのが止まらないくらい美味しい</p> <div style="text-align: right;"> <p>一人一人の感想</p>  </div>
--	--

図1 A児のグループの話合い記録

図2 他グループの話合い記録

(イ) 自己評価を行う振り返りの場面設定の工夫 手だて(1)イ

- ・ 毎時間の終末：本時の学習に対する自己評価

授業終末の振り返りでは、活動内容だけでなく、その授業を通して考えたことや気づき、次時の見通しなどが書き表されたもの、更に自己の変容など自分自身に視点を当てた振り返りについて全体で取り上げ、価値付けし、共有することを適宜行った。B児は、1学期「店に行き、売れ行きなどを聞いたりしてプレゼンの準備をしたい。」と、次時の活動の見通しの内容に留まっていた。しかし、毎時間の終末に児童が自己評価をし、教師が自己評価に対して価値付けることによって、2学期の終わり頃には、「活動紹介のグループに入って紙で大体の学習活動を書き、学習活動についてスライドに少し書くことができた。前の自分と比べて、少しだけ自分で何かを作ったり、考えたりすることができた。これからもそれができるようにしていきたい。」と自己の取組を振り返ることができるようになった。単元末に行った成長を振り返る活動において、「その日の自分のことを振り返る力が身に付いた。」と振り返り、成長を実感している児童もいた。個人差はあるものの、1学期当初から比べると、自己評価に係る質、量ともに成長が見られた。

イ 児童が自己評価を生かす場面や環境の設定

(ア) デジタル機器の効果的な活用 手だて(2)ウ

取材した情報を整理する場面では、一人一人が蓄積している学習活動記録や取材計画、取材メモなどの学習履歴を見返すなど、デジタル機器を有効に活用していた。また、さらに情報を収集し、整理する姿も見られた。一方、扱う情報量が多いため、話合いの中で重要な発言が流れてしまう場面があった。話合いの場面では、適宜、児童がホワイトボードに記録する、あるいは教師が必要に応じて場面を想起させる問い掛けをするなどして、支援する必要がある。また、書くことが苦手な児童は、音声入力を活用することも手段の一つとして考えておくとういことが分かった。

実践事例3 SDG sプロジェクト～環境フォーラムを開こう～（小学校第5学年）

(1) 単元の目標と評価規準

ア 単元の目標

SDG sの達成に向けた取組を行うことを通して、SDG sの内容や私たちの生活と環境との関わりを理解し、持続可能な社会を実現するための生活や行動の仕方について考えるとともに、自ら社会に参画しようとする態度を育てる。

イ 評価規準

知識・技能（知）	思考・判断・表現（思）	主体的に学習に取り組む態度（主）
① SDG sの内容について理解している。	① 今の世界の現状を捉え、課題を設定し、解決に向けて自分にできることを考えている。	① 学習活動を通して、自分自身の生活を見つめ直し、自分の意志で探究的な学習に取り組もうとしている。
② アンケートやインタビューなどによる調査を、目的や場面に応じた方法で実施している。	② SDG s達成に向けて必要な情報や手段を選択して収集している。	② 実現可能な開発目標の実現に向けた取組を考えたり実行したりする中で得た知識や友達の考えを生かしながら、協力的に課題解決に取り組もうとしている。
③ SDG sに対する自らの認識の高まりが、地域の人と共に持続可能な開発目標を目指して探求的に学習してきたことの成果につながったと気付いている。	③ 集めた情報を目的に応じて比較し、取捨選択したり、関連付けたりしながら、解決に向けて考えている。 ④ 相手や目的に応じて分かりやすく表現している。	③ 課題解決に向けた自分の取組や状況を振り返り、地域の持続可能な開発目標の実現に向けて粘り強く取り組もうとしている。

(2) 単元設定の理由

本単元では、次の二点をきっかけとした学習活動を展開する。第一に「SDG s先進度調査」（日本経済新聞社）の結果である。葛飾区は、2020年第2回調査では、全国815市区中第3位、2022年第3回調査では、第11位であった。第二に、SDG s推進に向けた葛飾区政策企画課の活動である。葛飾区には、政策企画課の中に、SDG s担当の部署があり、葛飾区のSDG s推進に向けて、活動、広報活動をしている。この二点をきっかけに、SDG s推進にあたり、今後の取組を発展させていく一端を児童が担い、自分たちだからこそできることに、児童自身がやりがいを感じることで、児童の学習への意欲につながると考えた。

また、本校は新小岩駅から近く、新しくなった駅ビルの中には、地域活動センターが入り、区のSDG sのブースも設けられている。近くの商店街には、多くの商店が並び、地域の方だけでなく、交通の拠点とする方々との関わりも多い。地域の方々は、本校の教育活動に協力的で、地域応援団として、昔の遊びを紹介したり、地域の広報活動を行ったりしている。本校はまさに、魅力的な地域の中に存在している。しかし、学んだことを地域に還元する活動を児童自身が行った経験はまだない。そこで、本単元では、児童が、SDG sを意識した生活を実行し、自分たちの住む地域に対して広報活動を行うことが、自分自身の生活を振り返ると同時に、自分自身が学んだことを地域に還元する最適な機会になるのではないかと考えた。

(3) 単元指導計画【全 50 時間扱い：() 内は時間数】

	<p>□主な学習内容 課：課題の設定、情：情報の収集、整：整理・分析、ま：まとめ・表現</p> <p>・学習活動【評価】手だて</p>
SDGsとは、何だろう。(10)	<p>課今の世界の現状を捉え、課題を設定する。(2)【思①・思①・主①】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年と10年前の7、8月の東京都の気温の変化を比べて、環境の変化を捉える。 ・SDGsに関わる情報を紹介し、これから学んでいきたいことを考える。 <p>情SDGsとは、何か調べる。(6)【知①・思①】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・興味のある項目ごとのグループを作り、設定された理由を調べる。 <p>整グループで発表し、具体的な内容をクラスで整理する。(1)【思③】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報収集したことを基にグループごとにまとめ、今後できることは自分たちにできることは何か考える。 <p>ま小単元1を振り返り、自己の成長について考える。(1)【知③】手だて(1)イ</p>
区からの取り組み、地域の方の意識調査からできることを考える(15)	<p>課身の周りの人々の役割や思いについて調べ、課題を設定する。(2)【知①・思①】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な取り組みについて知り、葛飾区の現状から、課題を考える。 <p>情葛飾区、新小岩の現状を知る。(8)【知②・主②】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・葛飾区政策企画課の方から、葛飾区の取り組みや達成度を聞く、質問をする。 ・地域の方へのアンケートの項目、方法を考える、WEB調査、街頭調査を行う。手だて(1)ア <p>整アンケート結果を集計し情報を整理する。(3)【思③・主②】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分かったことを分析し成果や課題を考える。 <p>まSDGs解決に向けての葛飾区や学校、自分自身の成果や課題設定する(1)【主③】手だて(1)ア</p> <p>ま小単元2を振り返り、自己の成長について考える。(1)【知③】手だて(1)イ</p>
実行しよう(5)	<p>課今後の学習計画を立てる。(1)【思①・主③】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちができることを考えてどんなことが実行できるのか考える。 <p>情実行しよう(2)【思②】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どのような方法で行うのか、効果をどのように確かめるのか考える。 ・グループごとに、SDGs解決に向けて考えたことを実行する。 <p>整・ま実際に活動して、分かったことを整理する。(1)【思②・主②】手だて(2)イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題は何か、次にどのようにしたいのか考える。手だて(2)ア <p>整・ま小単元3を振り返り、自己の成長について考える。(1)【知③・主①③】手だて(1)イ</p>
報告しよう!(20)	<p>課小単元3の終末で設定した「環境フォーラムを開こう」を実現するための学習計画を立てる(1)【思①】</p> <p>情・整報告の方法や活動の結果をどのように伝えるか考える。(17)【思②・主②】</p> <p>ま葛飾区政策企画課の方、地域の方を招き、環境フォーラム、企画や展示を行う。(2)【思④・主①③】手だて(2)イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・葛飾区役所、えきこわ(新小岩地域活動センター別館)、新小岩地区センター、FMにて、活動を報告する企画や展示を行い、みんなのできるSDGsについて知らせる。手だて(1)ア ・環境フォーラムや活動報告の際に学んだことを振り返る。手だて(2)ア ・単元全体を通して学んだことや自己の変容やこれからの生活について考えたことを交流する。手だて(1)イ

(4) 考察

ア **児童の自己評価能力の育成**

(ア) 評価規準に基づいた、自己評価の想定

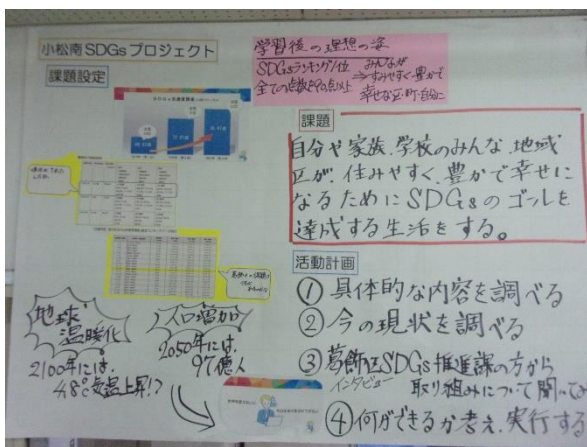
本時の児童の自己評価を具体的に想定することで、児童の学習状況に即した授業を展開することができた。児童の個々の自己評価を分析したところ、半数の児童が「調べたことを報告したい。」、残りの半数が「調べたことから、何ができるか考えたい。」との自己評価を行った。そこで、導入の際にどちらの学習の方向性になってもよいように、二通りの授業展開を準備することにした。導入時に、自己評価の結果をクラス全体に投げ掛けたところ、「調べたことから、何ができるか考えたい。」という方向性にまとまり、

児童の自己評価を生かした学習に修正することができた。このことにより、教師側が見
 児童の学習状況を把握することで、児童の意欲的な学習につなげることができた。

(イ) 意図的・計画的な自己評価を行う振り返りの場面

- 小単元・単元の終末：探究課題とゴールイメージに対する自己評価 **手だて(1)イ**

以下の写真のように、探究課題の解決の道筋と学習後にどのような姿になっていた
 かを児童と話し合い、教室に掲示した。各単元の終末には、意図的に学習後の姿に対す
 る自己評価と課題に対する自己評価を行うように促した。このことにより、学習を続け
 ていくうちに学習後の理想の姿と今の姿の違いに気付く児童や課題に対して、学んでい
 る内容のずれを感じている児童がでてきた。そこで、掲示物を見て学習の仕方や方法を
 調整し、学びを修正している姿が見られた。



自己評価を生かすための場面設定の工夫

今日のめあて		今日の目録	
アンケート結果を見て、分析し、今の現状を理解しよう。		11月8日(水)	
1	SDGsについて、自分や家族、学校のみならず、地域、国、地球全体が住みやすく、豊かで幸せになるためにSDGsのゴールも達成する生活をする。	1	SDGsについて、自分や家族、学校のみならず、地域、国、地球全体が住みやすく、豊かで幸せになるためにSDGsのゴールも達成する生活をする。
2	自分や家族、学校のみならず、地域、国、地球全体が住みやすく、豊かで幸せになるためにSDGsのゴールも達成する生活をする。	2	自分や家族、学校のみならず、地域、国、地球全体が住みやすく、豊かで幸せになるためにSDGsのゴールも達成する生活をする。
3	自分や家族、学校のみならず、地域、国、地球全体が住みやすく、豊かで幸せになるためにSDGsのゴールも達成する生活をする。	3	自分や家族、学校のみならず、地域、国、地球全体が住みやすく、豊かで幸せになるためにSDGsのゴールも達成する生活をする。
4	自分や家族、学校のみならず、地域、国、地球全体が住みやすく、豊かで幸せになるためにSDGsのゴールも達成する生活をする。	4	自分や家族、学校のみならず、地域、国、地球全体が住みやすく、豊かで幸せになるためにSDGsのゴールも達成する生活をする。
5	自分や家族、学校のみならず、地域、国、地球全体が住みやすく、豊かで幸せになるためにSDGsのゴールも達成する生活をする。	5	自分や家族、学校のみならず、地域、国、地球全体が住みやすく、豊かで幸せになるためにSDGsのゴールも達成する生活をする。
6	自分や家族、学校のみならず、地域、国、地球全体が住みやすく、豊かで幸せになるためにSDGsのゴールも達成する生活をする。	6	自分や家族、学校のみならず、地域、国、地球全体が住みやすく、豊かで幸せになるためにSDGsのゴールも達成する生活をする。
今日のまとめ		次日の内容	
SDGsという言葉は知っていても、日常的に行っていることにギャップがあった。		自分たちで解決できることを考えよう	

図3 デジタル機器での自己評価

イ **児童が自己評価を生かす場面や環境の設定**

(ア) 児童が自己評価を生かす場面の設定 **手だて(2)ア**

- 導入の場面における指導の工夫

導入の場面において、A児の「地域や学校の実態が分からないと、何をどのように紹介していけばよいか、分からない。」という自己評価を全体に伝えたところ、他のグループの児童が、「自分たちはどうだったのだろうか。」と図3のデジタル機器に蓄積されている自己評価を見返すようになった。その結果、他のグループも次時の学習に向けて「インタビューに行き、地域の人たちに聞いたほうがよいのではないかと、提案することができた。

- まとめの場面における指導の工夫

「調べたことを報告したい」と考えていたB児は、ポスターを書いている際に、書く内容がインターネットで調べたことをそのまま書き写すだけになっていることに気が付いた。そして、1単位時間のまとめでは、「書いていることがインターネットからの情報だけになった。自分が、何か行動して、その結果を報告しないと、地域の人に報告をしても、伝わらないのではないかと」と自己評価していた。B児は、自身が学習で取り組むべきことに気付くことができた。

実践事例4 Be ambitious! (小学校第6学年)

(1) 単元の目標と評価規準

ア 単元の目標

興味・関心に基づく課題に対して探究的に取り組む学習を通して、社会の中で活躍する人々の役割や今の自分が果たす役割、思いに気付き、自分の身の周りにある課題の解決のためにできることを考え、表現し、すすんで役割を果たしていこうとすることができる。

イ 評価規準

知識・技能(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(主)
① 自分の身の周りで活躍する人々の役割や思いを知ることができる。 ② 課題の解決のために自分が果たす役割に気付いている。 ③ 課題の解決に必要な情報の集め方や効果的な使い方について理解している。	① 興味・関心に基づいた課題を設定し、課題解決の見通しがもてる学習計画を立てることができる。 ② 書籍やタブレット、現地での取材など、調べ方を選んで自己の課題と関わりのある情報を収集している。 ③ 集めた情報から必要な情報を選び、関連付けることで、課題の解決に向かうことができる。 ④ 活動を通して学んだことや考えたことを、自己理解につなげたり他者に伝えたりするために、分かりやすくまとめ表現している。	① 身の周りで活躍する人々の役割や思いについて調べ、自分にもできることを実践する活動を考え実行する中で、自己の役割や生き方について考えようとしている。 ② 他者と積極的に関わりながら、課題の解決に取り組もうとしている。 ③ 課題の解決に向けた自分の取組や状況を振り返り、粘り強く取り組もうとしている。

(2) 単元設定の理由

本校がある清瀬市には、地域の中で役割をもち活躍する方々が多く、その方々が学校の教育活動を通して児童と関わりをもつ機会も多い。一方で、身近な方々の役割や思いに目を向けたり、児童が自分にも何かできることはないかと考えたりする機会は多くない。そこで、身の周りの人々の役割や思いを知り、興味・関心に基づいて自分ができることを考え実行する中で、他者と積極的に関わりながら、自己の生き方について考えを深めることができるようにしたいと考え、本単元を設定した。

(3) 単元指導計画【全70時間：()内は時間数】

	<input type="checkbox"/> 主な学習活動 課 : 課題設定、 情 : 情報の収集、 整 : 整理・分析、 ま : まとめ・表現 ・学習活動 【評価】 手だて
日光を守り受け継ぐ人々(15)	課 日光の自然や文化を守り受け継ぐ人々の役割や思いについて、課題を設定する。(3)【思①】 ・修学旅行で訪れる日光の資料から、日光に関わる人々の役割や思いに目を向ける。 情 調べ方を選んで、自己の課題と関わりのある情報を収集する。(4)【知①、思②、主②】 手だて(2)ウ ・書籍やタブレットによる調べ学習、現地での取材などから自己の課題に合った情報を収集する。 整 必要な情報を選び、関連付け、課題の解決に向かう。(4)【知②、思③】 手だて(2)ウ ・調べたことを5年生や保護者に伝えるために、情報を整理する。 ま 調べたことや考えたことをまとめ、5年生や保護者に伝える。(4)【知③、思④、主③】 手だて(1)イ

清瀬とみんなのために (40)	<p>課身の周りの人々の役割や思いについて調べ、課題を設定する。(3)【知①、思①】手だて(2)ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な人について調べ、伝え合うことで、目指す自己の姿を考え、学習計画を立てる。手だて(1)ア <p>情地域や学校で活躍する人々の思いや自分たちにできることについて情報を収集する。(7)【知③、思②、主②】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書籍やタブレットによる調べ学習、市役所や現地でのインタビューを通して情報を収集する。 <p>整集めた情報を、地図やデジタルホワイトボードに整理する。(15)【知②、思③】手だて(2)ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報を整理し、共有することで、活動に必要な準備を考え実行する。 <p>ま地域での活動を行い、自己評価を行う。(15)【知①、思④、主①③】手だて(1)イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動を通して気付いた自己の成長を中心に振り返り、今後の活動につなげる。
成長した自分を表現しよう (15)	<p>課小単元2の自己評価を生かして自己の成長について考え、課題を設定する。(2)【思①】手だて(2)ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成長した自分を表現する方法を考え、学習の計画を立てる。 <p>情小学校生活を振り返り、自己の成長について、情報を収集する。(3)【思②、主②】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校生活で児童が関わった保護者、教職員、地域の方、友達などから情報を集める。 <p>整情報を整理しながら、表現する方法を考え、準備する。(5)【知③、主③】手だて(2)ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己の成長について思考ツールやデジタル機器を用いて整理し、役割や生き方を考えやすくする。 <p>ま自己の成長を表現し、自己評価を行う。(5)【思④、主①】手だて(1)イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表現したことを伝え合う活動を通して、これらかの自己の役割や生き方について考える。

(4) 考察

ア 児童の自己評価能力の育成

(7) 評価規準に基づいた、自己評価の想定 **手だて(1)ア**

本単元を通してなりたい自分の姿を共有することで、児童が評価規準に基づく自己評価を行い、活動内容を考えられるようにした。単元前半に、右写真のように、目指す自己の姿を考える場面を設定し、共有した。A児は「どのようなことをすれば『Be ambitious!』な姿になるのかをしっかりと考えることができた。次はさらに具体的に、何をするのかを考えたい。」と、評価規準に沿った活動内容を考えようとする意欲を高めた。



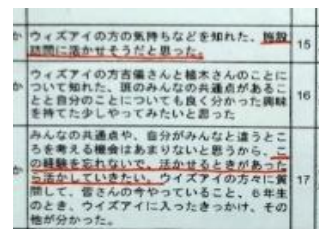
目指す姿の共有

イ 児童が自己評価を生かす場面や環境の設定

(7) 児童が自己評価を生かす場面の設定 **手立て(2)ア**

・ 導入の場面における指導の工夫

1単位時間の導入時に、右写真のように、自分や友達の自己評価に下線を引く活動を行い、前時までの学習の自己評価を生かす場面を設定した。自らの学習状況を把握し、本時の学習への見通しや必然性をもつことができた。



自己評価を生かす

・ 展開の場面における指導の工夫

自己評価の一覧は、教室掲示や配布物として蓄積し、全ての児童がいつでも見られるようにした。地域と関わる活動を新たに考え始めたB児は、それまでに行った活動の学習履歴や自己評価を見直し「難しそうだけど、みんなで計画をたてれば大丈夫。」と、課題解決に向けた見通しをもつことができた。

IV 研究の成果と課題

1 研究の成果

(1) 「児童の自己評価能力の育成」について

ア 評価規準に基づいた、自己評価の想定

教師が評価規準に基づいた、児童の自己評価を想定することで、児童の自己評価をよりよく見取ることができ、学習状況に即した授業改善を図ったり、支援の在り方を再考したりして指導に生かすことができた。すると、児童は自ら問題点に着目して活動を修正したり、見通しをもって課題解決に向けた具体的な方法を考えたりしながら取り組むことができるようになった。学習状況をより客観的に把握できるようになると、児童は、目的を明確につかみ、自ら学習を調整し、学習意欲を向上させていた。

イ 意図的・計画的な自己評価を行う振り返りの場面の工夫

1単位時間の導入、展開、まとめにおいて、意図的・計画的に自己評価を行う場面を設定し、継続することで、児童は自己評価能力を高めることができた。さらに、小単元の終末において、それまでの学習履歴を振り返り、自己評価を行うことで、自己の高まりや成長を実感し、その後の学習に粘り強く取り組んだり調整したりすることができた。

(2) 児童が自己評価を生かす場面や環境の設定

ア 児童が自己評価を生かす場面の設定

児童は、前時までの自己評価から学習状況を把握し、見通しをもって取り組むことができた。学習の履歴をいつでも確認できる環境をつくったことで、これまで蓄積した自己評価を生かして学習を調整し、課題解決に向けた最適な学習を進めることができた。

イ 児童が自己評価を生かす場面を設定した単元計画の作成

これまでの自己評価や学習履歴を生かしたくなる場面を単元計画に設定することで、児童は今まで気付かなかった自分のよさや変容、問題点に着目することができ、課題がより一層鮮明になったり新たな課題を自覚したりすることができた。考えが明らかになった児童は、目的が明確になり、自らの学習を振り返る必然性が生まれ、学習の質を高めていた。

ウ デジタル機器の効果的な活用

デジタル機器を活用して児童の自己評価を蓄積できるようにしたことで、児童が自身のタイミングで学習の履歴を見返したり、新たな情報を整理したりして、次の活動への見通しをもつことができ、課題の解決に生かすことができた。また、互いの自己評価を共有することができるため、多様な気づきが生まれやすくなった。

2 今後の課題

- (1) 手だて(1)ア「評価規準に基づいた、自己評価の想定」について、指導の充実を図ることはできた。しかし、児童の自己評価を想定し、指導を充実させることが、児童の自己評価能力の育成に効果的であるかについては、さらに研究と実践を深め、検証していく必要がある。
- (2) 全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びの実現に向けて、書くことが苦手な児童にはデジタル機器の自動音声入力を用いるなど、個に応じた支援を充実させる必要があった。一方で、児童の主体性に任せる場面と、教師が適切に指導を図る場面の精査が必要であった。

令和5年度 教育研究員名簿

小学校・総合的な学習の時間

学 校 名	職 名	氏 名
台東区立根岸小学校	主任教諭	高田 真美子
荒川区立第二峡田小学校	主任教諭	浅川 恵美子
葛飾区立小松南小学校	主任教諭	大浦 祐貴
八王子市立七国小学校	主任教諭	◎望月 慶
清瀬市立清瀬小学校	主任教諭	○川邊 裕作
武蔵野市立境南小学校	主任教諭	金谷 行恵

◎ 世話人 ○ 副世話人

〔担当〕 東京都教育庁指導部指導企画課
指導主事 川波 一喜

令和5年度
教育研究員研究報告書
小学校・総合的な学習の時間

令和6年3月

編集 東京都教育庁指導部指導企画課
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
電話番号 (03) 5320-6849